



資料から探る 塩屋埼灯台の歴史

■会期 2019年6月22日(土)～12月22日(日)

■会場 いわき総合図書館5階 地域資料展示コーナー

はじめに

周りを海に囲まれた島国日本にとって、古い時代から漁業と交易のために航海の安全は重要なことでした。19世紀になると外国との貿易が本格的に始まり、諸外国から灯台の設置が要請され、国家プロジェクトとして、当時の先進技術を駆使した灯台が建設されました。その後も灯台の灯を絶やさないように、多くの人の努力が重ねられてきました。

現在、科学技術の発展によって航路案内にGPS等が多く使われるようになりましたが、灯台は依然として海の道しるべであり、産業遺産や文化財として、さらには地域の観光拠点にもなっております。どうぞ、様々なドラマを秘めた灯台の歴史をお楽しみください。



空撮・塩屋埼灯台を東海上から見る

(昭和60年8月、いわき市撮影)

日本の灯台の歴史

かつて、航海の際には、山や岬などを目印にしていたが、交易が盛んになると、より遠くからでもわかるように岬や岩の上に火を焚くようになりました。

承和6年(839)に遣唐使が帰国するための目印に九州の峰に篝火を焚いた(『続日本後紀』)ことが、日本の灯台の始まりだと言われています。

その後、江戸時代になると、西廻りと東廻り航路が開かれ、港が整備され、各地に燈明台が建てられ、神社仏閣の常夜燈も目印に使われるようになりました。しかし、外国との貿易が始まると、大型船が日本近海を安全に航海できるように光が遠くまで届く西洋式の灯台が作られていきました。

『改正 日本船路細見記』
天保13年(一八四二)
塩屋崎より原釜へ三十里
この鼻の十丁程沖に磯が二つ。出鼻を廻って入る所が塩屋の湊で磯が多い。ここから佐武沢(寒風沢)まで四十二里。東海回りでは重要な地点である。以下略
(現代語訳参照『古地図・古文書で愉しむ諸国海運旅案内』)



いわきの塩屋埼や江名は難所として知られ、平安時代に清賢法印が江名合磯崎に蹊雲閣を建て常夜燈を灯したと伝えられています。その後途絶え、江戸時代末、上平亮賢が湯長谷藩内藤公の許可を得、孫の上平亮範によって常夜燈が再建されました。

塩屋埼灯台（初代・2代目）



塩屋埼の重要性



日本近海は地形が複雑で気象や潮の変化が多く、危険な海域です。塩屋埼は崖下に岩礁が点在し、明治元年（1868）にアメリカのエルエル号、明治15年（1882）には沖繩丸が座礁しています。

日清戦争直後の海運助成策で主要な大型沿岸灯台が建設されました。その一つとして、東アジアと北米、東京と北海道を繋ぐ大事な航路の安全を守るために、塩屋埼に煉瓦造では当時、最も高い灯台が建てられました。



設置まもない塩屋埼灯台〔明治時代末期・真木隆四郎氏撮影〕

初代と現在（2代目）の比較

	初代	現在(2代目)
所在地	石城郡豊間村	いわき市平薄磯字宿崎
初点灯	明治32年(1899)12月15日	昭和15年(1940)3月30日
構造	円形煉瓦石造	塔形鉄筋コンクリート造
塗色	黒白横線	白色
高さ(地上～頂部)	35.3m	27.32m
〃(地上～灯火)	30.3m	23.6m
〃(平均水面～灯火)	79.7m	73.0m
灯質	閃白光 毎20秒1閃光	単閃白光 毎15秒に1閃光
光度	206.500 燭光*1	44 万カンデラ*2
光達距離	23 海里*3(約43km)	22 海里(約41km)
明弧*4	219度 (南の度5分、西を経て北39度5分まで)	360度
レンズ	等級1等(直径3.2m) 仏国製閃光2面フレネルレンズ	第3等大型(高さ157.6cm) 国産閃光2面フレネルレンズ
灯器	灯油四重芯灯器	メタルハライドランプ
回転装置	水銀槽式回転機械(原動力は落下する分銅の重力・持続時間8時間48分)	水銀槽式電動回転装置

*1 燭光は以前の光の強さの単位 *2 カンデラは現在の光の強さの単位で、その数値は燭光とほぼ同じ

*3 1海里は1852m(緯度1分の長さ) *4 明弧は光が見える範囲(角度)

参考資料：『日本燈台史』、『郷土誌』、『灯台豆知識』、『石城郡誌』

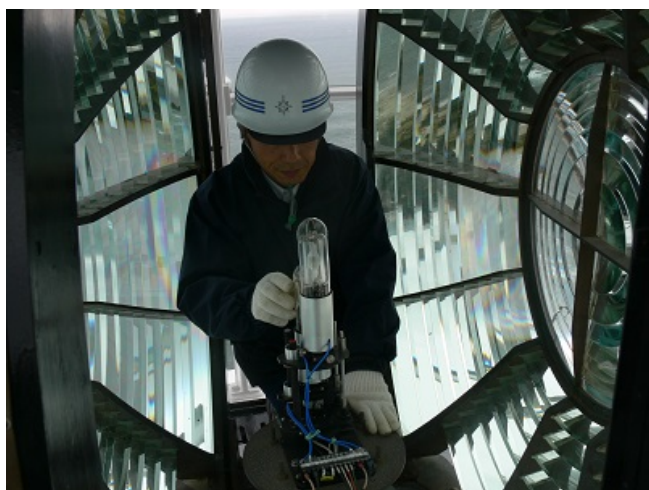
展示図版 『豊間村勢要覧 昭和11年・裏面地図』(いわき市立いわき総合図書館所蔵)

『磐城豊間名所繪はがき』〔大正時代〕 (〃)

『聖三稜玻璃』 山村暮鳥 大雅洞 1973 *1915年発行の復刻版 (〃)

「初代塩屋埼灯台煉瓦」(提供：福島県海上保安部) 平成25年採取

灯台を守る人々



塩屋埼灯台のランプ装置点検・東日本大震災後初の点灯に向けて（平成 23 年 11 月、いわき市所蔵）

灯台を守る職員の仕事と生活

現在のように電気ガス水道等の生活基盤が整っていない時代に人里離れた場所での点灯管理、保守点検等、当時の灯台職員の仕事の大変さは想像を絶します。『石城郡誌』

（大正 11 年）に「燈守常に三人宛居りて十二時間交代」、通行する船舶の監視や気象台への報告等で「繁忙を極む」と書かれています。昭和 31 年は「所員 7 人のうち 6 人までが所帯持ち」（『夫と共に海を守って二十年』）で、今の展示資料室の辺りで職員とその家族が生活し、子供たちは地元の学校に通っていました。

さらなる広がり

映画 「喜びも悲しみも幾年月」

木下恵介監督は、『婦人倶楽部』昭和 31 年（1956）8 月号の手記「海を守る夫とともに二十年」（田中きよ子・塩屋埼灯台長夫人）を元に、昭和 32 年（1957）、佐田啓二・高峰秀子主演の映画を製作しました。映画は昭和 32 年度芸術祭賞受賞、その年の邦画部門で興行成績第 2 位、映画と共に同名の主題歌も大評判になりました。

展示品 「婦人倶楽部 昭和 31 年 8 月号」
（提供：燈光会塩屋埼支所）



雲雀乃苑と塩屋埼灯台(平成 23 年 3 月 30 日、丹野稔氏提供)

灯台の今

現在、灯台の建設及び保守点検は、国土交通省の外局である海上保安庁交通部が行っています。塩屋埼灯台は、福島海上保安部の管轄です。灯台は航路標識の中の光波標識の一つとして岬や防波堤に設置され、沿岸の位置、航路の変針点や港の出入り口を示しています。のぼれる灯台の運営や資料展示室、刊行物等による広報活動、航路標識に関する知識の普及を担う（公社）燈光会が行っています。



塩屋埼灯台展示資料室新装オープン
（平成 20 年 2 月、いわき市撮影）

塩屋埼灯台の歴史年表

和暦	西暦	事項
明治32年	1899	12月15日 塩屋埼灯台、初点灯。煉瓦石造り。第一等灯台。
大正3年	1914	灯油四重芯灯器、20万6千5百燭光。 石油灯器、60万燭光に増強。
大正9年	1920	11月12日 石油式灯器から電気式灯器へ(100V/1000W)。 150万燭光に増強。
大正15年	1926	8月15日 豊間村立霧信号業務開始。モーターサイレン。
昭和5年	1930	1月20日 無線方向探知局開局。
昭和7年	1932	10月8日 無線標識局に変更。
昭和10年	1935	6月17日 霧信号業務、豊間村から移管。
昭和13年	1938	5月23日 磐城沖地震(M7.1)強震。折射玻璃8本折損、水銀215kg溢出。
		11月5日 福島県東方沖地震(M7.8)激震。レンズ大破脱落、水銀全て溢出、回転不能。燈塔下部に横亀裂し、13mmの食い違い発生。他亀裂無数。仮灯点灯。
昭和15年	1940	3月30日 灯台復旧。白色円形コンクリート造り。
昭和20年	1945	6月5日 終戦まで4回の空襲。レンズ等破損。仮灯点灯。
		8月10日 太平洋戦争における機銃掃射で職員2名殉職。
昭和22年	1947	5月5日 灯台復旧。(江名町漁業会の協力による)。
昭和25年	1950	4月7日 レンズ交換、光力100万燭光。
昭和28年	1953	8月1日 塩屋埼航路標識事務所に組織変更。
昭和31年	1956	雑誌『婦人倶楽部』8月号に塩屋埼灯台長夫人の田中きよ氏の手記「海を守る夫と共に二十年」が掲載。
昭和32年	1957	田中きよ氏の手記を原案に映画「喜びも悲しみも幾年月」(松竹映画作品、木下恵介監督)が公開。
		映画の主題歌は、映画と同じ題名で監督の弟の木下忠司氏が作詞作曲し、歌手の若山彰によって歌われ、大ヒット。
昭和38年	1963	8月 レンズの回転駆動、分銅式から電動式へ。

和暦	西暦	事項
昭和46年	1971	4月1日 いわき航路標識事務所に名称変更。
		宿舎及び事務所を小名浜に移転、職員は交代制で当直常駐。灯台敷地内の職員住宅を廃止。
昭和52年	1977	3月29日 霧信号所モーターサイレンからダイヤフラムホーンへ。
昭和62年	1987	美空ひばり氏が病後の復帰第2号として、「みだれ髪」、「塩屋埼」(作詞:星野哲郎、作曲:船村徹)がレコーディング。
昭和63年	1988	薄磯・豊間の観光協会が「みだれ髪歌碑」を完成し、除幕式。
平成元年	1989	灯台の登り口に田中きよ氏の手記の映画化を記念した「喜びも悲しみも幾年月」歌碑を建立。
平成2年	1990	いわき市観光協会により、「みだれ髪歌碑」と「美空ひばり遺影碑」を一对とした「雲雀乃苑」が完成し、「感謝の集い」を開催。
平成4年	1992	10月31日 無線方位信号所(中波ビーコン)廃止。
平成5年	1993	2月19日 職員常駐の当直勤務を廃止し、巡回管理に移行。
平成10年	1998	3月25日 光源を白熱電球からメタルハライドランプに変更。
		4月1日 福島航路標識事務所に組織変更。 11月1日、塩屋埼灯台が「日本の灯台50選」の一つに選ばれる。(第50回灯台記念日に全国からの応募により、選定。)
平成14年	2002	4月1日 灯台告示光度100万カンデラを44万カンデラ(実効光度)に変更。「永遠のひばり像」が完成。
平成15年	2003	4月1日 小名浜海上保安部・航行援助センターに統合。
平成16年	2004	2月23日 霧信号業務廃止。3月30日 耐震・免震工事完了。
		4月1日 保安部名を福島海上保安部に組織変更。
平成20年	2008	4月10日 無線方位信号所(レーマーカービーコン)廃止。
		7月2日 塩屋埼海岸局(AIS局)設置。
平成23年	2011	3月11日 東日本大震災により、灯台と敷地被災。仮点灯。
		11月30日 元の光力に復旧
平成26年	2014	大掛かりな復旧工事を経て、一般の方の灯台参観を再開。

◆◆◆ 参 考 文 献 ◆◆◆

- | | | |
|----------------------------|----------------|----------------------|
| ◆ 石城郡誌 | 石城郡役所 // 編 | 1979 (K/210.0-1/イ) |
| ◆ 海を照らして150年 | 海上保安庁交通部 // 編 | 2019 (AL/557/カ) |
| ◆ 海を守る夫と共に二十年 | 田中 きよ子 // 著 | 1985 (K/916/タ) |
| ◆ 郷土誌 豊間小学校 昭和7年(福島県訓令第2号) | 豊間小学校 // 編 | 1932 (K/210.1-1/キ-S) |
| ◆ 古地図・古文書で愉しむ諸国海陸旅案内 | 小泉 吉永 // 解説・訳 | 2004 (K/291/コ) |
| ◆ 灯台に恋したらどうだい？ | 不動 まゆう // 著 | 2017 (557.5/フ) |
| ◆ 灯台豆知識 | 高橋 理夫 | 2003 (K/557/タ) |
| ◆ 「灯台浪漫の祭典」記念アルバム | いわき市商工観光部観光物産課 | 1999 (K/557/イ) |
| ◆ のぼれる灯台14基 その歴史 | 燈光会 // 編 | 2006 (K/557/ノ) |
| ◆ 日本燈台史 | 燈光会 // 編 | 1969 |

◇ いわき市ホームページ「いわきの今むがし 平地区」『塩屋埼灯台』(平成28年12月21日市公式Facebook投稿)

<http://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1481507493705/index.html>

協力	(敬称略)	福島海上保安部	(公社)燈光会塩屋埼支所	坂本 博紀	緑川 健
		おやけ こういち	いわき市ふるさと発信課		